

第3回「カエル65大学」鎡（かすがい）人養成講座

『ワクワク未来の計画術！？』 議事録

1 日 時 平成22年8月28日（土） 午後2時00分～4時30分

2 場 所 ささえ愛センター（鳥居松ふれあいセンター 第1集会室）

3 参加者

【講 師】

NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた事務局長 三矢 勝司
NPO 法人まちの縁側育くみ隊スタッフ 名畑 恵

【司 会】 春日井市民会議「カエル65」理事 和田 美里

【事務局】 春日井市民会議「カエル65」会長 市原 和久

副会長 今西 實

副会長 二村みどり

理事 森長 節子

理事 青山 博徳

理事 森 浩子

【その他会員】 5名

【所 員】 春日井市市民活動支援センター所長 長谷川孝夫

所長補佐 野田 咲子

市民参画担当主査 小山 雄司

囑託職員 河田 博仁

【一般参加者】 24名



（司会）

開会にあたり、最初に春日井市民会議「カエル65」市原会長より、ごあいさつ申し上げます。

4 主催者あいさつ

こんにちは、「カエル65」の市原です。

いろんな会の挨拶のたびに、夏バテをしないためにはああしろこうしろと言っていたんですが、私自身がしっかり夏バテをしてしまいました。

このところ日本は落ち込んでいますが、一つだけ未来に対して、日本の科学技術が素晴らしい成果を上げたことがあります。小惑星探査機の「はやぶさ」が何年かぶりに小惑星に着陸し、無事に地球に戻ってきたという話題でした。これはすごい技術だと思い、いろいろなニュースとか後の話を聞いてみると、途中いろんなトラブルがあったんだけど、それを何とか乗り越えたという話で、例えば姿勢が制御できなくなり、太陽電池で発電できなくなったんだけど、奇跡的にフラフラしながらも少しずつ電気を集めて、通信が出来るようになったそうです。偶然の一致というか、エンジンが壊れてしまったんだけど、エンジンが制御できないという局面で、科学技術ではありえない話だけれども、どなたかが考えたんでしょう、燃料を噴射することで姿勢を制御したのです。いろんな形で人々の知恵を分かち合い、頭を悩ませながら、無事に地球に戻ってきたということで、これは本当に素晴らしいことだと思いました。

私たち「カエル65大学」でも、今日までの3回の養成講座で人と人を結び付ける、団体と団体を結び付ける、そういった人を育てる講座を行ってきました。

$1+1=2$ は単純な数学とおりの答えですが、もっともっと人々が知恵を出し合えば、 $1+1$ が3にも4にもなり、ひょっとすると10にもなるかもしれない、協働という言葉を用いながらこういった会を進めています。ぜひとも3回の養成講座を修了して、鎡（かすがい）人となって、 $1+1$ が10になるような活動を進めて行ってもらいたいと思います。



5 講師紹介

(司会者より、講師の紹介が行われた。)

(司会)

写真がありません。適当な写真が見当たらない時は、それにイラストを書いてください。その後役割分担として、進行係、記録係、時間係を決めて、始めてください。



(テーマごとのグループで、各テーマのビジョンに向けて、未来への三段跳びを計画する。)

それでは時間になりましたので、発表に移りたいと思います。1班から始めますので、皆さん他の班の発表をしっかりと聞いてください。

【1班の発表】

1. 1班は私がインタビュアーで、代表がお答えをします。それではどうぞ。
- A. 私たちの選んだテーマは、「春日井まつりに100万人を集めよう」です。
1. それでは、どうして100万人の「花バス」パレードなんですか。
- A. 春日井市はご存じのように大変細長い町です。現在は中央で祭りをやっています。そうすると問題点として出てくるのは、足の問題なんです。「そこに行けない」ことを解決しなければ、100万人を集めることは難しいだろうということです。
1. それを解決するのにどのようにしようと思いましたか、お話しください。
- A. 市内にある小さな町の広場で春日井まつりをやったらどうか、という話が出ました。
1. 町内でやっているまつりですね。でもその後がミソなんですね。
- A. 町内で行ったまつりに参加した人たちをそのまま全員バスに乗せます。そのバスを思い切り花で飾って「花バス」にします。そしてメインの中央会場に集めます。そうしますとバスには町内に人が全員乗りますので、大体30万人ぐらいの人が集まります。それを3日間繰り返せば100万人になる計算です。
1. 猫の写真がありますが、猫好きな人が3人もいて、町内単位で「我が町の野良猫」写真のコンテストをしてみても、という意見も出ました。以上です。



【2班の発表】

2班は、ちょっと深刻な話だったです。実はサンマルシェのベスト電器という大型の家電量販店が撤退します。1階が1200坪ぐらいありますが、そこが空き店舗になってしまうのでどうしたらいいか、話はそこから始まりました。

今日は、ニュータウンのグランドデザインをされた曾田先生がお見えですが、責任を持って住まなくてとは言って、ずっと今まで住んで見える素晴らしい方と一緒にさせていただいています。

基本タイトルは、「サンマルシェふれあい基地計画」をみんなで立てようということになりました。サンマルシェは大型量販店ですが、そうではなくて朝昼晩みんながふらっと来て楽しめるような場所にしよう、ものを売るのではなくみんなが参加できるような、例えばお店にしても1坪ショップだとか、自分たちの作品を発表する場所だとか、相談をする場所だとか、そんな場所にしたらいいんじゃないか。朝だけ、昼だけ、夜だけといった場面を変えながらいろんなお店を作ったらどうか、大きなお店を一つ入れてしまうよりも、細切れでいろんな特徴を持った拠点を作ればいいんじゃないか、という話が出ました。自分たちの身の丈の届くようなそんなお店にしたら面白いかもしれないね、というようなことでした。

それに、これはちょっとびっくりした話でしたが、石尾台の民生委員の方もメンバーにいましたが、石尾台の高齢化率が43.8%、約2人に1人が65歳以上ということでした。ニュータウン全体では30%、春日井全体が18.9%ですから、「サンマルシェふれあい基地計画」は早急に練らなくてはならないと思います。ニュータウンにお住まいの65歳から75歳までの方はみんなすごく元気です。その人たちをサンマルシェの空き店舗が出来た中で、どうしたら活躍してもらえるのか、そんなことをみんなで考えていこうということです。自分の得意部門を生かせる人がたくさんいるので、ニュータウンの大切な資源として、これからほじくり出して引っ張ってこようと考えています。



【3班の発表】

第3班は、21世紀の商店街が生き残るためにはどうしたらいいかということで、タイトルとして「地域商店がパワースポット化計画大作戦」と付けさせていただきました。商店街というのは買い物をする場と思われがちですが、やはり商店街の本来の意義としては、老人や子供が交流したり、時には餅つきをやったりすることも、当然機能として必要だと思います。それから商店街でお年寄りや子供たちが食事をしたりする中で、ぺちゃくちゃとおしゃべりをしたりする交流の場も必要ではないかとも考えております。未来の商店街がどうあるべきかということで、大変面白い意見が出ました。それぞれの地域の商店街は必要ではないかな、歩いて買い物が出来るところに商店街が必要だろうと思います。一つ一つの商店街にそれぞれの特徴があり、商店街同士が綿密にネットワークで結びあって、足りない部分は他の商店街と連絡を取り合い、買い物に行けない人はそこから取り寄せて持って行ってあげるようなネットワークづくりも大事じゃないかなと思います。とにかく楽しく買い物が出来て、楽しく歩いてウインドショッピング出来るようなところが必要です。そのためには最終的に何が必要かということ、招き猫の招く力と、書の町春日井の書の力を集めてパワースポット化すると提案されました水野さんから最後に一言説明をお願いします。

水野です。パワースポット化について説明します。まず例えば鳥居松や勝川などの地域商店街と郊外の大型商店とを比較しますと、地域商店街には圧倒的に歴史があります。イオンの催事場で座禅会をやらうとしても皆さん参加しようとは思いませんよね。それが歴史のあるしかも地名にもご利益がありそうな勝川や鳥居松で、国宝の密蔵院のご住職様を呼んで説法を説くとか座禅会を行い、親子で参加してもらおうと案内をすれば、郊外のショッピングセンターではなし得ない魅力があるので、きっと大勢集まると思います。



【4班の発表】

4班です。市民活動支援センターをもっと活性化していこうということで、この中心の笑顔の猫ちゃんのように「みんな集まれ、笑顔一杯で生き生き春日井市」というタイトルを付けました。私もこのセンターのことを知らなかったので、まずはこのセンターを知ってもらおうということです。公共施設に意見箱を置いて質問しやすい場所を作る。若者にもっと知ってもらおうということで、学校関係にPRする。幼稚園や大学にも行ってPRする。運営スタッフを募集する。若い人から年配の方まで幅広いスタッフを募集する。予定表の作成、意見箱からの意見を取り入れて行事を考えて行く。だれでも気軽に参加できる企画を多く作っていく。若い人が来にくいのが問題だと思うので、だれでも入り易いお店を作ったりして、みんなが笑顔になれるようにして、市民主体で色々なジャンルの広場を作る、若者がバンドのイベントをやったり、餅つきや、お年寄りと物を作っていくと言った企画をすることによって、みんなが笑顔になればいいなと思います。



8 共有

時間も押し迫って来ましたが、他の班を褒め合うということで意見交換をしたいと思います。1班の人は2班を、2班の人は3班というように次の班の褒める言葉を探してください。一人当てますので、皆さん覚悟してください。

(1班から2班へ)

私も以前ニュータウンに住んでいて、現状の高齢化について分かるつもりではいるんですが、そういった問題に後ろ向きにならずに、前向きにやっいていこうという姿勢が非常に感じられて、その点がよかったです。

(2班から3班へ)

パワースポット化大作戦といったキーワードが出ていますけれども、一応商店に関係する人は世の中の動きに対して敏感である、そういった点から考えると今の流行り言葉のパワースポットを前面に出していることはいいことじゃないかと思いました。

(3班から4班へ)

私もこのささえ愛センターのことをあまり知らなかったんですが、この頃お邪魔するようになって知ったんです。やっぱり皆さん知らないと思うんですね。いろんなところにPRされることはいいことだと思いますし、笑顔で対応しましょうと言うところがすごく感動いたしました。

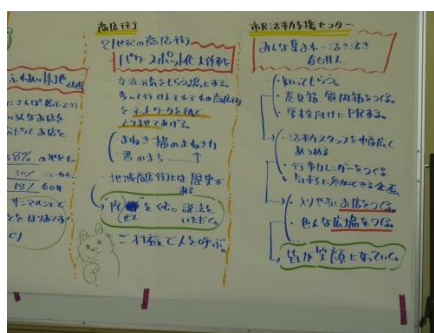
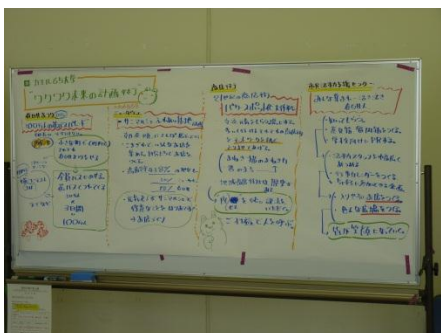
(4班から1班へ)

1班の一番おもしろかったのは、お花のバスです。私もお花のバスに乗って、みんなとワイワイ騒ぎながら市役所に集まったら、やっぱり30万×3で100万人のおまつりが出来ると思います。その花も町内会のみんなでベタベタ貼って競い合いをして、どのバスがきれいだったかを比べ合うのも面白いなと思いました。

9 まとめ

皆さんすばらしい発表とご意見をいただきました。全体を私の方でまとめるのはかなわないんですけども、今日見え隠れしている大事なことを、私の方からお話を差し上げたいと思います。

ワクワク計画術キーワードを7本の柱でまとめました。それぞれにサブがつきます。



①点目は、苦楽を共にする仲間集め（発意はひとり、活動は技持ち、他世代の和作りから）

②点目は、ワクワク&リーズナブル（子どもの視点でふれあい基地づくりなど、楽しさとクーポンや目安箱など筋道だった仕組みづくり）

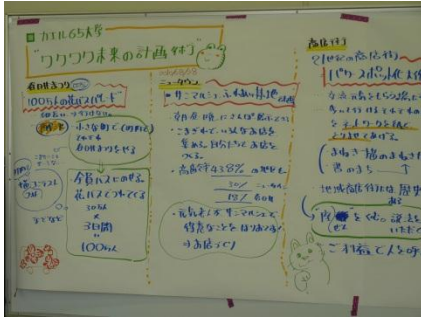
③点目は、枠組みを超えてつながり発見力を高めよう（違いをより合わせることは合意形成の始めの一步）

④点目は、いいところ探しは、あるべき未来の始めの一步（高齢化50%を乗り越える輝く個性の発想で、地域資源を発掘しよう）

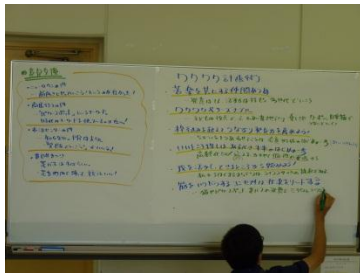
⑤点目は、我を活かし、出来ることから始めよう（私から始まるまちづくりは、ライフスタイルの提起である）

⑥点目は、筋を逸脱するコンセプトは、状況をリードする。(猫やパワースポットを花バスの発想でマイクロとマクロをつなごう)

⑦点目は、春日井らしさを一番大事にしよう(「商店街の役割って何?」など本質的価値議論から春日井らしさを見出そう)



カエル65大学に出ておられる方は、何度か延藤先生の話聞いたことがあるでしょうか。私は延藤先生のアシスタントをしていますが、お決まりなのが頭文字を結ぶともう一つキーワードが出てくるというのがあるんですけども、今日は、上から読んで「くわわいがすか」で何も意味をなしません。不出来な弟子で申し訳ありません。しかし、冒頭の市原会長の「はやぶさ」の話を思い出していただいて、逆転の発想で日本が誇れる技術を見出したというのがありました。そこで、逆転の発想で下から読んでみたいと思います。下から読むと「春日井ワクワク」になります。ワクワク計画術と題した今日の講座が、ワクワク状況を開く始めの一歩になればと思い、お話をさせていただきました。有難うございました。



(司会)

有難うございました。皆さん、講師のお2人に大きな拍手をお願いします。
(三矢さん、名畑さんに大きな拍手が送られた。)

(司会)

ここで、5分ほどの休憩といたします。その後交流会を行います。お茶やお菓子も用意していますので、ご自由どうぞ。

(休憩5分)

10 交流会

(司会)

これから交流会を始めます。ここで講師の先生に質問等も行いますので、進行を森長さんにバトンタッチします。

(森長氏)

それでは、三矢さんと名畑さんにお伺いしたいことがありましたらお願いします。

(参加者 1)

まだ若いのにすごいなあといつも感心しています。いろんな仕事をされていますが、家庭を持ってみえると思いますが、食べて行かれますか。どちらかというボランティア的なお仕事が多いようですが。

(三矢氏)

確かに奥さんには大変苦勞をかけていると思います。私のいるNPO法人りたは、財政規模が約 1 億円です。その大きな事業収益は、岡崎市には地域・地域に市民活動を応援して行こうという拠点施設が 4 か所ありますが、りたはそういった拠点施設を管理運営しています。そこで、今日やったような実際のソフトプログラムで市民向けに講座を持ったり、また公共施設についてはハード的なもの、エレベーターの点検を業者に依頼したりしています。ですから一応生活はできています。

よく勘違いされるのは、三矢さん行政の方ですか、と言われますが、僕らがやっているのは公共的なこと、例えば市民活動センターを運営するとか、従来行政の人がやってきたことを、NPO 法人などの民間でまかして行こうということで、いろんな仕事をもらいながら食いつないでいます。

(参加者 2)

三矢さん、名畑さんはいつもとてもリラックスしていて、皆さんの発表についても皆さんの良いところをうまく引き出していました。余裕を持ってプレゼンができるコツがあれば教えてください。

(三矢氏)

緊張していますが、そこでポーカーフェイスを通すのが技です。まず場数がものをいうところが一番大きいと思います。

(名畑氏)

私はひとりで楽しくなっちゃうタイプです。いつも舞い上がっていますが、楽しくやるようにしています。

(三矢氏)

想定プログラムでないと舞い上がっちゃうんですね。プログラム通りであれば盛り上げられるんです。

雑談の中で、仲間集めて大変ですねという話がありましたが、仲間の集め方はケースバイケースで色々です。支援センターの掲示板に求人紙を貼ったり、当センターには仲間集めコーナーがありますので、そこがきっかけになることもあります。先の昔語りのおばあちゃんの例でいえば、職員が図書館の読み聞かせのグループに声をかけたり、直接昔語りとは関係がない子育て支援のプレイルームの保育士さんとの雑談の中で、知人を紹介されることもあります。

ですから、鎧人たるものもそういった心構えが必要だと思います。広告媒体をいろいろ工夫したり、テーマ型で探したり、顔の広い人につぶやいたりする中で、一人二人と増えて行き、すそ野が広がればいいですね。そうすれば今まで会ったことのない人でもつながっていくことがあります。

(参加者3)

カエル大学の皆さん、講師の先生、ささえ愛センターの職員の方々、有難うございました。

(司会)

これで交流会を終わりたいと思います。

最後に、今後の「カエル65大学」につきまして、今西副会長からご案内させていただきます。

11 次回案内

今西副会長より、次回は第1回座談会「サボテン日本一」(仮称)を11月21日(日)14時~16時に当センターで開催するとの案内があった。

(司会)

本日は長時間にわたり、本当にありがとうございました。これで第3回「カエル65大学」鎧(かすがい)人養成講座『ワクワク未来の計画術!?!』を終了させていただきます。次回の座談会で、また皆さんにお会いできることを楽しみにしています。それでは交通安全に十分注意をして、お帰りください。